



城西国際大学

# 地域連携推進センター通信

Center for Regional Collaboration

発行

城西国際大学 地域連携推進センター  
千葉県東金市求名1番地

発行日

2026年3月27日

Vol. 6



## Contents

- ① 地域連携推進センター紹介  
山武郡市地域連携意見交換会
- ② 東金の特産を活かしたクラフトビール  
外国人児童生徒に「やさしい日本語」を  
成田空港でインバウンド誘致イベントに参加
- ③ 域学共創プロジェクト
- ⑥ 専門職連携教育 ライフステージIPE
- ⑩ 市民未来大学  
履修証明プログラム
- ⑪ 公開講座
- ⑫ 2025年度主な地域連携活動



## 地域連携推進センターとは

地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2025年度は、域学共創プロジェクト、ライフステージIPE・専門職連携教育、公開講座、市民未来大学を実施するなど、各種地域連携活動を行いました。

## 山武郡市地域連携意見交換会

地域連携推進センターでは、千葉東金キャンパス周辺地域の課題解決に向け、近隣自治体との連携強化を目的とした「地域連携意見交換会」を2021年度から定期的に開催しています。本会は、本学と近隣3市3町（東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町）が共同で地域課題を発見し、その解決に向けたアクションプランを検討する重要なプラットフォームとなっています。

2025年9月16日に開催された会議では、教務部長の額賀路嘉教授が、全学部・学科等の教育課程について説明を行いました。あわせて、地域と連携した地域課題の企画・参加を通じ、学生の成長や学習成果の可視化を

目指す新たな教育プログラムを紹介しました。これに対し、参加自治体からは、地域ニーズとの親和性や学生の参画方法などについて具体的な意見が寄せられました。

また、2026年4月に開設予定の「健康科学部」への改組についても報告があり、教育・研究体制の強化を通じて、さらなる地域貢献を目指す方針が示されました。あわせて、「市民未来大学グローバル人材育成コース」における、多文化共生社会を支える人材育成の取り組みについても共有されました。

最後に、地域連携事業の推進をテーマに意見交換を行い、大学と地域が相互に連携しながら、持続的な協力関係を構築していくことの重要性を確認しました。





## 活動紹介



### ◆産学官連携プロジェクト

#### 東金の特産を活かしたクラフトビール「東李-TOURI」誕生

観光学部観光学科 柴崎小百合 准教授

観光学部の授業「観光プロジェクトB」から、東金市の新たな観光コンテンツとしてクラフトビール「東李-TOURI」が誕生しました。本事業は、東金市、地元プラム農家、浦安市の祭醸造との産学官連携により実現しました。学生は東金産プラム「サマーエンジェル」の収穫から醸造工程までを体験し、「東金のプラムで地域を盛り上げたい」という想いを込めて商品化しました。完成したビールは、プラムの香りと爽やかな酸味が特徴のヘイジーペールエールです。

9月の東金市長へ完成報告、初披露となったZOZOマリスタジアムでは120杯が完売、10月の道の駅みのりの郷東金での販売など、学生が主体となり地域ブランドの発信に取り組んでいます。



### ◆山武市外国人児童生徒の日本語教育支援

#### 外国人児童生徒に『やさしい日本語』を

国際人文学部国際交流学科 林千賀 教授

近年、千葉県山武市はスリランカ国籍の住民の増加に伴い、児童生徒も小中学校で受け入れが始まり、2023年に「山武市及び山武市教育委員会と城西国際大学との外国人児童生徒の日本語教育支援に係る連携協定」が締結されました。そこで本学では千葉県山武市のスリランカ児童生徒のための日本語支援の一環として国際人文学部国際交流学科のゼミ生が漢字や言葉を、ゲームを通して楽しく学んでもらえるよう交流会を実施しています。交流会では「やさしい日本語」や英語でコミュニケーションをとりながら日本語支援を行っています。これらの成果として、今年の日本語教育学会で発表し、「山武モデル」の拡充に努めました。

さらに、小学校や中学校の日本語教育支援員や指導教諭たちへの支援も継続して行われています。本学の日本語担当教員が日本語担当者会議で講師を務めるなど幅広い活動が行われています。



### ◆成田空港で実践する国際交流と地域連携

#### インバウンド誘致イベントに通訳ボランティアとして参加

国際人文学部国際交流学科

2026年2月5日、成田国際空港で開催された「成田国際空港インバウンド誘致促進イベント」に、国際人文学部国際交流学科の学生が通訳ボランティアとして参加しました。九十九里地域や成田周辺地域の魅力を外国人観光客に伝える中で、英語での案内に加え、臨機応変な対応力が求められる貴重な経験となりました。学生からは、自身の語学力やコミュニケーション能力の課題に気づくとともに、地域の方々との交流を通じて各地域の魅力や思いやりを感じたとの声が寄せられました。





## 域学共創プロジェクトとは

「域学共創プロジェクト」は、本学の地域基盤型教育の一つであり、大学と地域との協働により地域課題解決に取り組む学生主体の授業です。プロジェクトを通じて街を活性化するとともに、企画力やマネジメント力、創造性を養うことを目的として活動しています。2025年度は9プロジェクトを開講、1、2年生を中心に118名が履修し実際に活動を行ないました。

各プロジェクトの活動について、2026年2月には、東金ショッピングセンターサンピアにて報告会を実施、多くの方に足を運んでいただきました。報告会では集大成として今までの活動や結果、今後の展望などを報告し、2025年度の活動は終了となりました。



### 【最終発表会アンケート結果】



最終発表会ではアンケートを実施し、46名の方からご回答いただきました。項目が多数だったにもかかわらず、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

#### ●性別

	件数
男性	24
女性	8
無回答	14
計	46

#### ●年齢

項目	件数
20代以下	10
30代	5
40代	2
50代	6
60代	5
70代	7
無回答	11
計	46

#### ●参加満足度

項目	件数
満足	16
やや満足	10
無回答	20
計	46

#### ●評価(全体、最高4)

項目	ポイント
主体性	3.25
協働性	3.28
解決力	3.20
活性化	3.27
企画力	3.26
創造性	3.14
発表力	3.24
トータル	3.24

#### ●自由記載(抜粋)

- 学生らしい、いきいきとした発表が印象的で大学がより身近な存在に感じられました。
- 複数学部が連携しており、学部を越えた横のつながりを感じました。
- 発表に向けて真摯に取り組んできた様子が伝わり、大変参考になりました。
- 学生が街に出て研究発表を行うことは意義深く、住民と大学の距離が近づく取り組みだと感じました。
- 現在の発表内容が一目で分かるよう、落語の「めくり」のような表示があると分かりやすいと思います。





## 障がい者の「生きる」に寄り添うコミュニティケア

担当教員：伊賀聡子(看護学部看護学科)、太田幸雄(看護学部看護学科)、森山拓也(福祉総合学部福祉総合学科)

本プロジェクトは、「地域との繋がりに乏しい」という課題の解消に向け、「生活クラブ風の村」の障害者福祉事業所5施設、千葉県アール・ブリュットセンターうみのもり事務局を運営する「株式会社いろだま」と協同し、障がいのある方々と地域の皆さまがアートを通して「つながる」ことを目的とした活動です。本年度は、第3回となる『風のアール・ブリュット × ココロ・ポリリズム JIU』（城西国際大学水田美術館にて）を開催し、地域共生社会の実現を目指し、障がいのある方の「生きる」に寄り添うコミュニティケアの実践を報告しました。

学生たちは、制作の現場を見学することで、障がいのある方の「表現したい」と思う気持ちを尊重することや、バーバルコミュニケーションが

困難な方に対する表情やしぐさ、目線などを通じたコミュニケーションの必要性、表現できる工夫をすることで「つながる」ことが可能になることを学ぶことができました。本年度の学生が関わった展示会（6日間）に550名以上の方がお越しいただきました。多くの方にご来場いただいたこと、そして丁寧に展示された作品をご覧いただけたことで、学生たちは、当事者だけでなくご家族や施設スタッフとも大きな喜びを共有でき、アートを通して地域と「つながる」ことを支援することで、家族ケアや支援者ケアにもつながるのだということ学びました。また、地域の方々から「作品から元気をもらいました」「温かい気持ちになりました」などの声を聞き、アートを通じた生を感じることができました。



## 道の駅と大学プロジェクト

担当教員：金子祐介(観光学部観光学科)

本プロジェクトは、東金市役所（以降、東金市）や九十九里地域観光連盟と連携し、道の駅の利点を活かした観光振興に寄与するプログラムづくり（(1)地域のネットワークを構築すること、(2)地域経済に寄与する観光について検討すること、(3)通年観光に寄与する地域の仕事を生み出すこと）を実施しています。

本年度は、九十九里地域観光連盟の依頼を受け、九十九里町片貝海岸で行われた自転車のイベント参加者に山武郡市を知ってもらうための広域なコースづくりとそのコース上に設けるエイドステーションの運営を実施しました。本プロジェクトに参加した学生が、地域の観光に寄与するインフラづくりを行政の方々と共に検討できたことは、学生

にとって非常に貴重な学びの機会となりました。とりわけ本年度の企画を通じて、学生たちは地域に眠る観光資源を掘り起こし、それらを行政の方々をはじめ地域の担い手や観光客に対して、魅力ある情報として整理・共有できたのではないかと考えます。さらに学生たちは、調査能力や情報伝達能力を身につけただけでなく、発見した観光資源を「社会的に価値ある企画」へと昇華させるために試行錯誤を重ねました。その過程で、企画を一過性のイベントで終わらせず、持続可能なビジネスとして成立させるための方法を構築しようとした点に、本プロジェクトの重要な成果があると捉えています。



## 山武市在住高齢者のデジタルデバインド解消プロジェクト

担当教員：四十竹美千代(看護学部看護学科)、竹内弥彦(福祉総合学部理学療法学科)、安田孝(福祉総合学部福祉総合学科)、小川明宏(福祉総合学部理学療法学科)、中野元(看護学部看護学科)、山根主信(福祉総合学部理学療法学科)

社会の急速なデジタル化により、多くの高齢者がデジタル機器の利用や情報取得において取り残される「デジタルデバインド(情報格差)」が深刻な課題となっている。

本プロジェクトでは、デジタル機器に慣れ親しんだ学生が、デジタルデバインドの現状を理解するとともに、高齢者にデジタルスキルを適切に教えるための知識と技術を習得し、高齢者のデジタル活用を支援することを目的とした。

1. 高齢者との交流が新たな学びにつながった  
LINEでのやり取りを通して、学生自身が知らなかった知識に

触れる機会となり、高齢者の方々が登場以上に活発であることを実感できた。交流自体が楽しく、有意義な学びの時間となった。

2. 高齢者の成長に喜びと責任感を感じた  
高齢者がスマートフォン操作を理解して使いこなす姿を見て大きな喜びを感じると同時に、もっと分かりやすく丁寧に教えたいという指導者としての意識が高まった。
3. 高齢者の興味関心をきっかけに学生の視野が広がる  
LINE 交流を通して高齢者の興味のあるニュースや野球の話題に触れる機会が増え、それらを積極的に見る習慣がついた。



## オリーブ産地化応援プロジェクト

担当教員：光本篤史(薬学部医療薬学科)、戸田傑(メディア学部メディア情報学科)、石田ゆかり(看護学部看護学科)

本プロジェクトは、東金市が推進するオリーブの産地化と連携し、「収穫体験」「大学祭運営」「クラウン制作」などを通じて、オリーブの魅力を学ぶとともに、情報発信および地域交流に取り組むものである。

本年度は、オリーブの新たな地域ブランディングを目指し、オリーブ葉(OLP)の苦味や辛みに着目し、地域企業と協働して、オリーブショコラ、オリーブ米粉焼菓子、OLPスティックなどのオリーブ葉加工食品の開発に取り組んだ。オリーブ産地化プロジェクトに取り組むことで、オリーブの知識を身につけ、体験イベントで地域の皆さんと交流し、

オリーブがつながる社会活動の価値を知ることができた。大学祭では、オリーブオイルを使ったリップやバスボム、オリーブハートのしおりの制作やスタンプラリーを通じて、オリーブの「楽しい」をプロデュースした。

今年度の主目的であるオリーブ葉加工食品の開発では、オリーブショコラの販売にたどり着き、学生自らデザインしたロゴマークやポップが、キャンパス内ローソンの店頭を飾ることとなった。オリーブ文化の普及により、「ヘルスケアのまちづくり」につながる活動ができた。



# 川代棚田共育プロジェクト

担当教員: 姜東星(福祉総合学部福祉総合学科)、高橋淳一郎(福祉総合学部福祉総合学科)

本プロジェクトは、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むことを目的としています。

具体的には、学校法人城西大学の創立者である水田三喜男先生の故郷・千葉県鴨川市を訪問し、棚田の保存活動を通じて地域振興に貢献しています。日本の田植え、稲刈り、収穫祭の文化は地域ぐるみの助け合いの象徴であり、農業には多くの人々の心と力を合わせる事が求められます。共に学び、成長し合う「共育」を推進しています。また、建学の精神である「学問による人間形成」を体感し、異なる背景を持つ人々(留学生、地域住民)と協力しながら、SDGs に沿った社会貢献を実践しています。

実際に稲を栽培し、田植えから収穫までの作業を体験することで、棚田

の伝統を守ることの大切さや、お米を作ることの大変さに気づきました。農業では、地元の方々から手作業での田植えや収穫の方法を教わり、学生たちも質問をして主体的に学びました。秋の収穫祭では、田植えや稲刈りで得た学びを地域の方々にもポスター発表し、収穫したお米を振る舞うなど心温まる体験を共有することができました。

これらの活動を通じて、日本の伝統文化を体験的に学ぶとともに、現代における農村の地域づくりと地域活性化の課題に気づくことができました。また、デイサービス利用者との触れ合いを通じて、傾聴や共感の大切さを学び、福祉を学ぶ学生の就職志望にもつながりました。



## 地域に住まう人々の健康増進と障害予防に向けた実践活動

担当教員: 安齋紗保理(福祉総合学部理学療法学科)、大杉紘徳(福祉総合学部理学療法学科)、深谷泰山(福祉総合学部理学療法学科)

本プロジェクトでは「健康増進・障害予防」に焦点を当て、地域に住まう人々を対象とした体力測定や地域の人々と一緒に健康課題について話し合うグループワークなどの実践活動とおして、地域にはどのような健康課題があるのか、それを解決するためにどのような取り組みが必要なのかを考えます。

これらの活動により、世代を超えた住民同士のつながりを深めながら、地域全体で支え合い、継続的な健康づくりを推進し、活動地域における健康増進・障害予防に向けた自助・互助活動の促進を目指しています。

本プロジェクトにおいて、体力測定会や市民公開講座の運営に関わることで、身体機能の測定や運動指導を通じた地域住民の健康づくり支援の基礎を身につけることができました。

また、こうした測定会や市民公開講座の運営を介し異なる世代の方々

と交流することで、コミュニケーション能力を養うことができました。さらに、健康に関する地域の課題について、日々の生活背景も踏まえながら、その解決に向けた方法を多角的な視点から考えることができるようになったと考えます。



## ケア機能のあるまちづくり — 命を守る防災教育 —

担当教員: 柚山香世子(看護学部看護学科)、丸山あかね(看護学部看護学科)

プロジェクトに参加した学生は、聴覚障がいをもつ子どもへの配慮として指文字を取り入れた「防災かるた」や、「防災リュックを作ろう」ゲームを考案します。そうした教材を用いた実践を通して、相手の発達段階や特性に応じた関わり方、工夫の必要性を理解し、実践する力を養いました。また、多学部の学生で構成されたチームでの活動により、専門分野の異なる視点から防災を捉える学びが生まれました。とくに、留学生との意見交換では、日本と中国における避難方法や防災意識の違いを知り、防災教育には多様な背景への配慮が必要であることを実感した活動となりました。こうした取り組みが、同じ地域に暮らす仲間としての連帯へと繋がって

ほしいと考えます。

本プロジェクトは、未来の地域を担う子どもを対象とした防災教育を通じて、地域住民と協働した新たなコミュニティ形成について検討することを目的としています。防災教育の対象者は、学童保育に通う健常児だけでなく、聴覚障がいなど何らかの障がいをもつ子どもも含まれています。そのため、特性に配慮した関わり方を地域の人々と共に考え、実践を通じて私たちの活動を評価する仕組みづくりを行ってきました。その実践での結果をもとに、子どもに合わせた「防災かるた」などの教材を作成し、有効性や地域との相互関係について考察しています。



## 東金の伝統のお祭り

担当教員: 塩出浩和(国際人文学部国際文化学科)

本プロジェクトは、参加学生ひとりひとりが、異なる背景を持つ多様な人材として、企業や住民などの地域の方と協働し、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に学生が主体的に取り組むことを目的とします。また、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、その歴史や成りたち、意味合いなどを実際に関わっている人々から聞き、それらが地域にどのように根付いているのかを理解します。そして、実際に祭りに参加することにより、地域への貢献に繋げることができればと考えます

本授業では、千葉県、とりわけ、東金市とその周辺地域の歴史を学び、この地域の伝統文化の諸相を理解します。その学びを持って、本年度は、学部・学科・出身国・学年の違いを越えて参加学生たちが議論しました。その結果、学生と地域の人々との交流・相互理解が進みました。

また、日吉神社の宮司様からは、神社の歴史と現状についての話も聞き、コミュニティに根差した信仰に接することもできました。そのおかげで、菅原神社祭礼の宵宮と神輿巡行に参加した際には、地域の活力を感じるとともに、将来にわたり伝統的祭礼を継続するための課題を探ることができました。



## 地域の自然と食の課題に取り組むプロジェクト

担当教員: 国武陽子(経営情報学部総合経営学科)

本学が立地する山武地域は豊かな里山環境が広がっています。里山には多くの希少生物が生息しており、生物多様性保全の観点からも重要な環境です。近年、里山環境の荒廃が進み、山武地域も例外ではなく、地域の希少な生物を保全するための対策が求められています。また、このような里山をはじめとする豊かな山武地域の自然は、農業とも密接に結びついていることが特徴です。本プロジェクトでは、地域の自然環境の保全と農業の持続可能性に関する複数の地域課題について、地域住民や多くの機関と連携し、学生たちが主体的にプロジェクトを推進する実践力を身につけることが目標です。また、地域への愛着を深めることも重要な目的であるとされます。

参加学生は、年間を通じ、地域の様々な方々と連携しながら地域課題に取り組んだことにより、それぞれに経験の幅を広げたと考えます。開始当初は森や水田に行くことを嫌がっていた学生も、当たり前のようにフィールドワークを行い、教員を介さずに地域の方と連絡を取り合い、プロジェクトを進めていけるまでに成長しました。また、経営学やマーケティングなどの大学での学びの意味が実際の経験の中で理解できたという学生もいました。このような気づきは学業に取り組む動機づけとなり、将来を見据えたキャリア形成における主体性を促進すると考えます。また、地域で学ぶこと、地域の方々と関わりあう楽しさを実感し、自分たちが学ぶ山武地域への理解や愛着が深まりました。



# 城西国際大学 専門職連携教育

## ライフステージIPE



ライフステージIPEは、人の誕生から看取りまでの人生全般を支援する専門職の養成を目的として、城西国際大学(JIU)が提供する専門職連携教育プログラムです。

これまで、各学科内での学びに加え、異なる専門職を目指す学生が共に学び、共通の目標に向かって意見交換を行う機会を設けることで、多職種協働に必要な基礎的能力の育成に取り組んできました。2026年4月には健康科学部が開設され、ライフステージIPEは新たなフェーズへと進みます。

今後とも、地域の医療・福祉専門職の皆さまからのご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

IPE99

ライフステージIPE

A

テーマ『発達課題・健康課題を通して対象を理解する』

### 【目的】

人の一生を発達段階別に身体的・心理的・社会的側面から理解し、ライフサイクルからみた生涯にわたる発達の課題を学ぶ。そして、健康課題をもつ人の講演を拝聴し、専門職者へのニーズを知る。

### 【到達目標】

- ライフサイクルからみた生涯における発達の課題、発達を視野に入れた支援が理解できる。
- 健康課題を持つ人の生活や専門職へのニーズを理解できる。
- チームケアを担う自身の目指す専門職の専門性への理解、他職種の専門性の理解を深める。

### 【受講生】

福祉総合学科(2・3・4年生計17名)  
理学療法学科(患者講演会6名)  
看護学科(2年生98名)  
医療薬学科(2年生30名)



### 【担当教員】

(福祉総合学科) 森山拓也、茆海燕、馬場康徳  
(理学療法学科) 安齋紗保理  
(看護学科) 宮澤純子、柚山香世子、高柳千賀子、橋本純  
(医療薬学科) 中村洋、北村昭夫

### 【プログラムを終えて】

看護学科、福祉総合学科の先生方の講義より、受講生は乳児期、幼児期、思春期、成人期・成熟期、老年期といった人生の各発達段階において、身体的・精神的・社会的な側面から発達の特徴および課題を理解したうえで、自らの専攻分野から発達を視野に入れた支援を考えました。

患者講演会では、「医師をはじめ、看護師、薬剤師、言語聴覚士などさまざまな専門職のおかげで、これまでの生活を維持できていることがわかった。また、利用者のニーズに寄り添い、多職種間で情報を共有しながら協働することが不可欠であると知った」などの感想が寄せられた。利用者の気持ちを理解し、支援するための行動を自覚する貴重な機会となりました。

### 【スケジュール】

日時	講義内容	担当
4/11(金)	発達・生涯発達とは何か／親になることとは／胎児期・新生児期の発達	宮澤純子(看護学科)
4/18(金)	乳児期から幼児期前期の発達 乳児期から幼児期前期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子(看護学科)
4/25(金)	幼児期後期から思春期の発達 幼児期後期から思春期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子(看護学科)
5/ 2(金)	成人期成熟期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	森山拓也(福祉総合学科)
5/ 9(金)	患者講演会	西田江里様
5/16(金)	老年期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	高柳千賀子(看護学科)
5/23(金)	全体の振り返り、期末試験	馬場康徳(福祉総合学科) 茆海燕(福祉総合学科)

## 【目的】

現在地域で活躍している医療・保健・福祉専門職の方の事業活動や支援の実際を拝聴し、各職種の理解、自職種の理解を深める。

## 【到達目標】

- より安全で質の高い医療を提供できるように、専門職連携の重要性を学び、人々の健康支援をチームで実践するための基礎的能力を養う。
- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や他職種から何を求められているかを知る。
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え理解する。

## 【受講生】

福祉総合学科(9名)      理学療法学科(47名)  
看護学科(99名)      医療薬学科(48名)

## 【スケジュール】

- 第1回6/6(金)、次回以降に各専門職講師と打合せて授業の司会進行を担当する運営委員の学生(2~3名)を選出した。
- 第2回以降は運営委員の進行により、事前学習(各専門職の根拠法、資格の概要、その専門性の特徴、活躍の場)の確認、その後地域で活躍中の講師による講演(以下、表参照)を拝聴した。
- 講演を受け、4学科混合のグループでディスカッションした後、運営委員による司会進行での質疑応答により講師の矜持などをより具体的に理解した。
- 各学生はリアクションペーパーに講義から知り得た専門職の特殊性や講師の矜持などを記述し、専門性の異なる他職種との共通点と相違点から、どのようにチームとして機能できるかを考察した。

## 【担当教員】

(福祉総合学科) 茆海燕、馬場康徳  
(理学療法学科) 安齋紗保理、深谷泰山  
(看護学科) 高柳千賀子、橋本純  
(医療薬学科) 中村洋、北村昭夫



## 【受講生の声】

- 講師の方々は、専門知識だけでなくコミュニケーション能力、調整能力、リーダーシップを持ち、個々の専門性を尊重することでチーム内の信頼、患者の信頼に繋がっていた。自分も多様な人と関わり、人の意見を尊重し自分の意見も言えるように日常の大学生活で積極的に取り組んでいきたい。
- 多職種の一員として信頼される存在となるためには、最新のエビデンスに基づいた知識と技術を身につけ、学会参加や研修、文献検討を積極的に行い、自らを高め続ける必要がある。そうした努力を惜みずプロフェッショナルを目指し、他職種から求められる役割を常に意識しながら学びを深めていきたい。
- この講義をとおして他職種から自分の職種がどう期待されているか知ることの大切さに気づいた。それぞれの専門職が強みをもっているからこそ自分の職種も信頼され必要とされる存在でありたい。

## 【プログラムを終えて】

受講生は、今まさに地域の最前線でご活躍の講師から熱意あふれる講義を受け、専門職をめざす自覚と意欲を高めました。ご協力を頂きました講師の皆様へ深く御礼申し上げます。



日時	講師(所属)	テーマ
6/13(金)	介護福祉士 片岡信明(ゆりの木苑)	介護福祉士の仕事の実際と他職種連携
6/20(金)	薬剤師 笹原将生(ササハラ薬局)	在宅ケアにおける薬剤師の役割
6/27(金)	精神保健福祉士 社会福祉士 赤堀久里子(NPO法人リンク)	社会福祉士・精神保健福祉士の仕事の実際と他職種連携
7/ 4(金)	理学療法士 杉山楓(こぱんはうすさくら新松戸教室) 理学療法士 鈴木雄大(千葉西総合病院)	多職種連携における理学療法士の役割
7/11(金)	看護師 小柴千鶴(さんむ医療センター)	医療機関の退院支援の現状と看護師の役割
7/18(金)	介護支援専門員(ケアマネージャー) 今西航地(株式会社コイノニア)	あなたを助ける最強の武器 他(多)職種連携

## 【目的】

福祉総合学科、理学療法学科、看護学科、医療薬学科の4学科間で、共通テーマのもと、2種類のワークショップ(以下、WS)を行うことで、互いの専門職を理解し、さらに専門職間の連携を体験する。

創作事例WSでは、未完成の事例をもとに、事例の背景やストーリーを自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個別性とは何か』について考える。模擬事例検討WSでは、提示された事例をもとに、本人の望む生活に向けた医療福祉チームによる支援の道筋を探るプロセスを疑似体験する。

## 【到達目標】

### 創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 多数の個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り『個別性とは何か』について考察できる。

### 模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を複数学科の学生が協働して作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有・議論することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

## 【受講生】

福祉総合学科(4年生8名)  
理学療法学科(3年生8名)  
看護学科(3年生5名)  
医療薬学科(4年生2名)  
聴講参加:薬学研究科(1名)

## 【スケジュール】

### 創作事例WS

6月6日(金)～13日(金):

創作事例(学科内のグループワーク)

### 模擬事例検討WS

6月13日(金)～20日(金):

支援計画の作成(学科内のグループワーク)

6月27日(金)～7月11日(金):

支援計画の作成(学科混合のグループワーク)

7月11日(金):

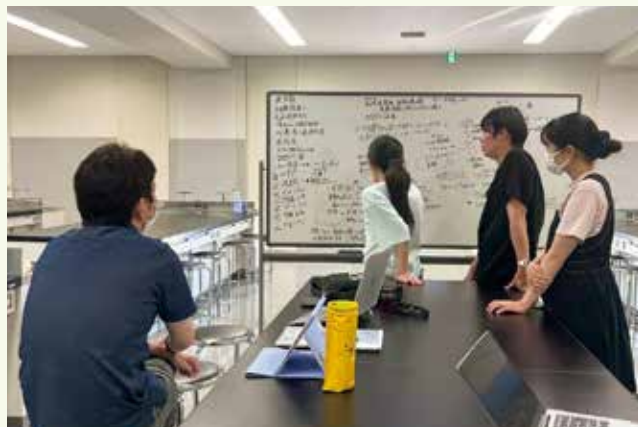
学科混合で話し合った支援計画の発表

## 【担当教員】

(福祉総合学科) 森山拓也  
(理学療法学科) 安齋紗保理  
(看護学科) 高柳千賀子、橋本純  
(医療薬学科) 中村洋

## 【受講生の声】

- グループワークを通して自分の目指している専門職の役割について考えることができました。また、異なる学部の方とグループワークをしたことを通して、新たな学びがあったり、支援方法を考えることが出来たので良かったです。
- 他の学部と話し合いをする中で、自分の視点とは違う意見がありとても勉強になりました。様々な職種から貴重な意見を聴くことができ楽しかったです。
- 人数が少なかったのは少し残念でしたが、有意義な活動を行えてよかったです。人数が少なかったからこそかもしれないですが、みんなで協力し合えて楽しかったです。
- 先生方も分からないところを解決してくれたり意見を出してくれて理解が深まりました。他学部とコミュニケーションをとることも出来て楽しかったです!



## 【目的】

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ。

## 【到達目標】

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する。
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する。

## 【受講生】

福祉総合学科(4年生1名)

理学療法学科(3年生9名)

看護学科(4年生6名)

医療薬学科(5年生5名)

## 【スケジュール】

- 事前学習 8月25日(月):  
チームビルディング、事前調査
- 実地研修 8月26日(火)～28日(木):  
フィールドワーク(在宅訪問、施設訪問など)
- 事後学習 8月29日(金):  
振り返り、実地研修での学びの発表・共有

## 【実地研修先】

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、片貝薬局(九十九里町)、きだ在宅クリニック(大網白里市)、九十九里ホーム病院(匝瑳市)、みんなのライフサポートクリニック大網(大網白里市)



## 【担当教員】

(福祉総合学科) 伊藤将子、馬場康德  
(理学療法学科) 大杉紘徳、安齋紗保理、深谷泰山  
(看護学科) 伊賀聡子、高柳千賀子  
(医療薬学科) 光本篤史、佐々木英久、中村洋

## 【受講生の声】

- 医療現場に加え、介護現場など地域の高齢者の方々の暮らしを見ることが出来たため、良かったです。
- 多職種連携・協働のなかで自身の専門職としての意見がどのような影響を与えるのかが特に実感できました。今後も患者とその家族にとって最適なチーム医療の在り方を追求し続けていきたいと思う。
- 医療は1ヶ所では完結しない・直接的コミュニケーションを取ることが大切であるとの学びが今後の看護に生きる意識となりました。
- 歯科クリニックなどに実習する機会はなかったためそのような機会があって貴重な経験となりました。多くの患者さんは糖尿病や高血圧など様々な薬を使用しているため抜歯の治療を行う際には血糖値や血圧のコントロールが非常に重要だと学べて薬剤師の役割も非常に大切だと感じました。
- それぞれの職種で患者、利用者が話したいことは異なるため他職種間で情報を共有し合うことが重要だと学ぶことができた。
- 今回の研修を通して、チームとなった理学療法の役割を理解することが出来た。今後は様々な職種をさらに理解し、分担、特徴を捉えながら多職種連携に関わっていきたい。
- 施設や地域の特性を知ることができたことに加え、利用者の方の視点に立ち、接し方を考えることが出来たので良かった。

## 【プログラムを終えて】

異なる専門職を目指す学生同士が共に研修した体験が、それぞれの学科での学び以上に大きい刺激になったことがうかがえました。多職種協働の実験を経験させていただいた地域の皆様へ感謝いたします。

## 2025年度 城西国際大学「市民未来大学」

城西国際大学「市民未来大学」は、大学が共有する知的資源をわかりやすく提供し、地域住民の方に自ら健康を培い、生きがいをもって社会参加していただくことを目的とした一般市民向け教育プログラムです。

2025年度は、新たに「グローバル人材育成コース」を展開し、ヘルスプランナーコース8名、健康・趣味・教養コース8名、語学コース15名、グローバル人材育成コース21名の計52名が入学し、2年生と共にそれぞれの分野で学んでいます。



### 健康・趣味・教養コース 講座内容

講座名	講師
オリーブに親しむ	光本篤史
毛筆を楽しもう	川津恵鮮
世界遺産の不思議と魅力	片岡英夫
更なる健康を目指して	久保田好子
誰もが輝く地域づくりを考える	広瀬美和・川瀬力也 綿貫文野・高橋淳一郎
犬との触れ合いがもたらす健康	柚山香世子・志賀亮太 渡邊さやか
AEDを用いた蘇生法・日常生活で活用できる介護予防	四十竹美千代 中野元・池上萌絵
皮膚の健康を守る香粧品	押坂勇志
ともに築く社会と心の豊かさを探る	小島克久・森山拓也 馬場康徳・姜東星

講座名	講師
世代を超えてつながる居場所づくりを考えよう	下島礼子・濱田昌実
香り・においの世界	中村智香・石原啓次
大学生と一緒にレクリエーションスポーツ体験	石原啓次
街歩きに関する講座	金子祐介
パプアニューギニア文化・モーリシャス文化	Bahau Simon Peter・Mico Kevin Poonoosamy
漢方薬・生薬について	地野充時・大原厚祐 田嶋公人・堀江俊治
日々の生活に運動を取り入れるには？	安齋紗保理・大杉紘徳
パソコン活用術	小波津美香

### 履修証明プログラム

市民未来大学では、地域社会で活躍する人材の育成を目的とした履修証明プログラムを展開しています。2023年度からは2年間の「ヘルスプランナーコース」が始動し、解剖学・生理学をはじめとする健康の基礎知識や、地域における健康維持・増進に関与できる実践力を養っています。さらに2025年度からは1年間の「グローバル人材育成コース」を開設し、日本語教育や多文化共生に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。2025年度は両コースあわせて26名が修了し、履修証明書が交付されました。※履修証明プログラムとは、学校教育法に基づき、大学が社会人等を対象に体系的な学修機会を提供し、一定の学修成果を修めた者に履修証明書を交付する制度です。



2025  
年度

# 公開講座

## 実施一覧

2025年度は東金市、香取市、茂原市、鴨川市、御宿町、旭市にて15講座を実施しました。座学だけでなく、運動やワークショップなど体験型の講座も行いました。また、講座終了時には質問を受けるなど、地域の皆様へ学びの機会を提供することができました。講座アンケートではいずれの会場も概ね好評という結果をいただいております。

地区	日時	テーマ	講師	受講者数
東金市	9/9(火)~9/12(金) 17:30~19:30	Wordを活用した文書作成のステップアップコース	経営情報学部 斎藤紀男	48名
	10/7(火)~10/10(金) 17:30~19:30	はじめての動画編集体験コース	経営情報学部 成瀬健一郎	84名
	10/11(土) 10:00~11:00	カラダを動かすと脳も元気に?	理学療法学科 大杉紘徳	14名
	11/15(土) 10:00~11:30	健康体力づくり講座:モルックを楽しもう!	経営情報学部 深山元良	14名
香取市	2026/2/25(水) 13:30~15:30	次世代への地球からの贈り物 ~「世界遺産」の魅力と課題~	観光学部 佐滝剛弘	31名
	2026/3/4(水) 13:30~15:30	パラスポーツ ポッチャを体験	経営情報学部 石原啓次	20名
	2026/3/11(水) 13:30~15:30	人生の最期まで自分らしく生きるために	福祉総合学科 清水正美	36名
茂原市	2026/1/8(木) 14:00~16:00	おいしく食べる. 健康になる. —消化管にあるカプサイシン受容体とワサビ受容体の役割—	薬学部 田嶋公人	23名
鴨川市	11/15(土) 10:30~12:00	痛風・高尿酸血症とその治療薬	薬学部 中村洋	13名
	11/18(火) 13:25~14:55	オリーブクラウン制作ワークショップ	薬学部 光本篤史	15名
	2026/1/24(土) 10:30~12:00	温泉の癒し効果	観光学部 于航	16名
御宿町	10/15(水) 14:00~15:30	つながりをつくる あらたな住まいのあり方と可能性	福祉総合学科 馬場康徳	7名
	11/26(水) 14:00~15:30	手を温めるだけで認知症予防に!!!	看護学部 四十竹美千代	30名
	12/24(水) 14:00~15:30	医薬品、医薬部外品、化粧品の違い	薬学部 押坂勇志	13名
旭市	11/26(水) 13:30~15:30	転倒予防から考える「あさピー☆きらり体操」継続の効果 よい姿勢と呼吸のための「呼吸筋ストレッチ体操」	理学療法学科 竹内弥彦 山根主信	160名



## 2025年度 主な地域連携活動

活動名称	実施期間
山武市外国籍児童生徒への日本語教育支援活動(日本語交流会)	2025年4月～2026年1月
山武市内にて「体力測定会」	2025年5月～2026年1月
市民公開講座「膝・股関節の痛みと手術のお話」	2025年6月14日
【地域の取り組みを知る・学ぶ!】松尾高校居場所(MTO)カフェー地域とつながるー	2025年7月11日
東金アリーナ あなたの“これから”を支える身体づくり	2025年8月～11月
南市原エリアの観光に関わる魅力発信コースづくり、完成報告と市長対談	2025年9月1日・26日
「はじめてのボランティア!やれることやってみようボランティア活動について学ぶ」講座	2025年9月19日
東金市の地域資源を活用したクラフトビールの開発・完成報告	2025年9月24日
東京海上日動「ぼうさいセミナー～日本で安全にくらすために～」講座	2025年9月26日
ちば子ども大学「カラダをもっと知ろう～よい姿勢と呼吸で集中力アップ!～」講座	2025年9月27日
「あたま・からだ健康増進事業に参加しましょう」スマホ教室・健康講座	2025年9月～12月
山武郡市の魅力ある観光ポイントをつなぐコースづくりとイベント支援	2025年10月11日
千葉県庁と学生の意見交換会	2025年10月14日
オリーブ産地化応援プロジェクトでオリーブの収穫に協力	2025年10月15日
東金市東中学校職場体験	2025年11月4日・5日
第3回 風のアール・ブリュット×ココロ・ポリリズム JiU障がい児・者による絵画・工芸作品展	2025年11月8日～14日
震災対策教育ビデオドラマ制作 麴町警察署より感謝状を授与	2025年11月10日
第3回「公平地区スマホ教室 in 城西国際大学」	2025年11月15日
紀尾井町公開講座「5フォース分析を使用して考える中小企業の経営戦略」	2025年12月6日
渋谷区「ゴミ問題」をボードゲーム化、完成披露会・体験会	2026年1月22日
成田国際空港インバウンド誘致イベント通訳ボランティア参加	2026年2月5日
第8回 川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会、特別企画「公開講座」	2026年2月7日

## 2025年度 連携協定一覧

協定先	締結時期	連携内容
新潟県	2025年4月1日	新潟県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る
北海道並びに札幌市	2025年11月10日	北海道並びに札幌市の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る
芝山町	2025年12月26日	「高齢者の健康及び福祉の増進並びに学術研究」に関する覚書を締結